

取材のお願い

第59回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館 出品作家はダムタイプに決定

国際交流基金は、2021年5月から11月にかけて、イタリア・ヴェネチアにおいて開催される「第59回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」の日本館展示を主催します。このたび、国際展事業委員会の選考会議を経て、日本館出品作家がダムタイプに決定しましたので、お知らせいたします。貴媒体でのご紹介やご取材を何卒よろしくお願い申し上げます。

記

■第59回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館

出品作家：ダムタイプ

プロジェクトメンバー： 高谷史郎、坂本龍一、古舘健、濱哲史、白木良、原摩利彦、高谷桜子 ほか

主催/コミッショナー： 国際交流基金

※選考の過程・理由については別添をご参照ください。

■第59回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 全体概要

会期： 2021年5月～11月（会期末定）

会場： ジャルディーニ地区（Giardini di Castello）、アルセナーレ地区（Arsenale）等

総合ディレクター： Cecilia Alemani（Curator of the High Line, New York）

総合テーマ： 未定

公式ウェブサイト： <http://www.labiennale.org>

■ダムタイプとは

ヴィジュアル・アート、映像、コンピューター・プログラム、音楽、ダンス等、さまざまな分野の複数のアーティストによって構成されるグループ。1984年の活動開始以来、集団による共同制作の可能性を探る独自の展開を続けてきました。特定のディレクターをおかず、プロジェクト毎に参加メンバーが変化する等、ヒエラルキーの無いフラットでゆるやかなコラボレーションによる制作活動は、美術、演劇、ダンスといった既成のジャンルにとらわれない、あらゆる表現の形態を横断するマルチメディア・アートとして内外で評されています。

これまでに、メルボルン国際芸術フェスティバル、バービカン・センター（ロンドン）、新国立劇場（東京）、国際モダンダンス・フェスティバル（ソウル）、リヨン現代美術館、アテネ・コンサートホール、シンガポール芸術祭、シカゴ現代美術館、アムステルダム市立劇場等で上演/展示されてきました。

近年の活動では、2014年にビデオ・インスタレーション《MEMORANDUM OR VOYAGE》を東京都現代美術館で展示。同作品はROMAEUROPA（イタリア）や国立近現代美術館（韓国）でも展示され、2017年ポンピドゥー・センター（フランス、パリ）に収蔵されています。

また、個展「DUMB TYPE | ACTIONS + REFLECTIONS」が、ポンピドゥー・センター・メッス（フランス、2018年1月20日～5月14日）と、東京都現代美術館（2019年11月16日～2020年2月16日）で開催されました。

2020年3月28日、29日には、新作パフォーマンス《2020》を、ロームシアター京都で上演予定です。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■ダムタイプ ステートメント

ダムタイプは システムである

活動開始以来、特定のディレクターを置かず、様々なメンバーが参加し、フラットな関係での共同制作を行い、その活動の領域を拡張してきた。

ダムタイプは、さらに拡張する

ダムタイプは、観察する

自然を

テクノロジーを

社会を

人間を

post-truthの時代を

「真実の向こう側」を

「時代の穴」を

post-truth

「Truth」自体を疑うこと

今まで信じてきたシステムが崩壊しようとしている分断された混沌しかない世界で、今まで事実だと思われていたものが不確かに感じられ、人々は自分たちが信じたいものを「真実」と思い込む。

「真実」は、もはやかつての「真実」ではない

「未来」は、もはやかつての「未来」ではない

「希望」は、もはやかつての「希望」ではない

「幸せ」は、もはやかつての「幸せ」ではない

インターネット上の言説空間＝post-truthをどう受け止め、霧のように重さの無くなった言葉に包囲されている情報環境の中で「当たり前」を純粋な視線で見つめ直し、「今をどう理解し、生き、そして死んでいくのか？」 問い続けなければならない。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■ ヴェネチア・ビエンナーレ (Biennale di Venezia) について

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリアの都市ヴェネチアの市内各所を会場とする芸術の祭典です。1895年に最初の美術展が開かれて以来、120年以上の歴史を刻んでいます。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」を意味するイタリア語で、現在世界各地で実施されている国際展の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」（3年に一度）と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭等を独立部門として抱えるようになりましたが、そのうち美術展は、現代の美術の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の美術界の注目を集めています。

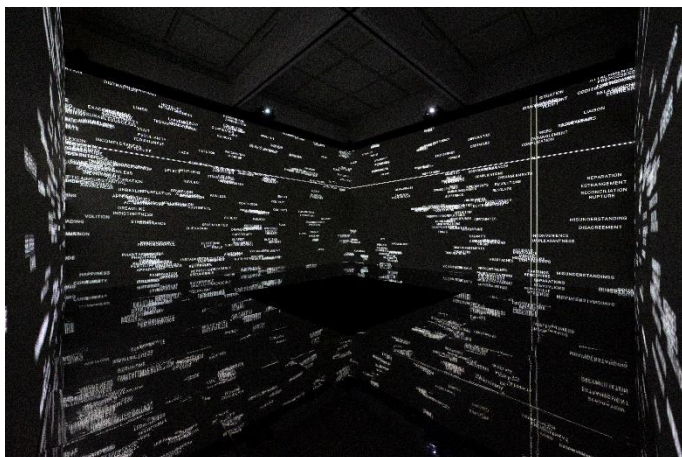
■ 広報用画像

画像を希望される方は、広報担当の熊倉、原田（press@jpf.go.jp）までご連絡ください。

【ご使用時の注意点とお願い】

- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、作家名、作品名、作品情報及び所定のクレジットを必ず記載してください。
- ・画像の改変（トリミング、部分使用、文字のせ含む）、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・Webでの掲載に際しては、必ずコピーガードをつけていただくようお願いします。
- ・掲載誌または掲載記事を広報担当者までお送りください。

以上



Dumb Type 《TRACE/REACT II》2020
「ダムタイプ | アクション+リフレクション」展示風景 2020年
東京都現代美術館 写真：福永一夫

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

第 59 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 作家選考について

国際交流基金から委嘱された下記の 6 人の選考委員が、過去のコミッショナー／キュレーター経験者、歴代の国際展事業委員よりあらかじめノミネートされた複数の作家の推薦リストをもとに選考会議を開催した。基金からは、一作家もしくは継続的に活動しているユニットを選定すること、選定作家は日本の現代美術を代表するにふさわしい存在であり、国際的な経験が豊富であることが望ましいと事前に伝えられた。

選考会議ではまず推薦された作家についての資料・カタログを閲覧し、推薦コメントにも目を通した。その後、委員による議論と投票を重ねて候補作家を絞り込み、最終的にダムタイプを選定作家として基金に答申することとした。

従来、ヴェネチア・ビエンナーレの日本館では、選考委員会が指名したコミッショナーが作家を選定するか、あるいは指名コンペによってコミッショナー／キュレーターの企画プランを選定する方法を採ってきたが、選考委員会が直接に作家を選定する方法を採用したのは今回が初めてである。

ダムタイプ（当初の名称はダムタイプシアター）は 1984 年に京都で結成された美術、音楽、ビデオ、ダンスなど多領域にわたる作家のグループで、国内外の美術館、劇場などでインスタレーションや映像、パフォーマンスを中心とした活動を展開してきた。デジタル技術と身体表現とを不可分に結び付けている点で、“ポストヒューマン”に向かう時代を象徴する存在と目されてもいる。

同グループの選定理由としては十分な活動歴があり、海外でも高い評価を受けていると同時に、現在もきわめて先鋭な作品を発表し続けていること、日本館での強力なプレゼンスのある展示が期待できることなどが挙げられた。

時代に対する批評的な視点を反映させ、これを「アクション」として表現する。最近注目されている「アートコレクティブ」の先駆け的な存在であり、メンバーを更新しながら、変化する情報とメディア環境の中での人間性を探求し続けている。

建畠 哲

選考委員(五十音順)

建畠 哲 (埼玉県立近代美術館館長・多摩美術大学学長)

中井 康之 (国立国際美術館副館長)

長谷川 祐子 (東京都現代美術館参事・東京藝術大学大学院教授)

松本 透 (長野県信濃美術館館長)

南 雄介 (愛知県美術館館長)

鷲田 めるろ (キュレーター)